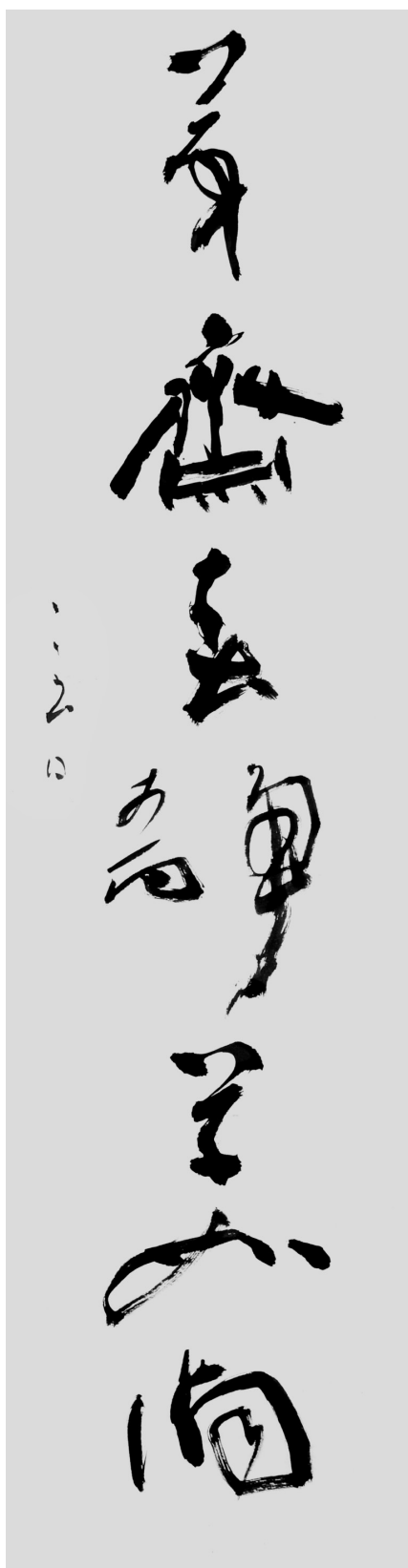


4月25日正午必着

明石春浦先生書



ほうさいはるしずかにてくけむりのことし
茅齋春靜草如烟 (蘇舜欽) 閑居の春である。

明石幸子書



しゆくわはじめておさまりそうもくこまやかに
宿雨初收草木濃 羣鴉飛散下堂鐘 (李) (李) (しやう)
ちやうらうふしそういんにかえる
長廊無事僧歸院 盡日門前獨看松 (しやう)

※三月号14ページ左の手本で「彼」の字が「波」となっており
ました。訂正してお詫び申し上げます。

飛火野は春きはまりて山藤の花こぼれ來も 瑠璃の室より (吉野 秀雄)

幽人臨水坐 好鳥隔花鳴
野色連空闊 江流接海平
門前向谿路 今夜月分明

幽人水に臨みて坐し 好鳥花を隔てて鳴く
野色は空に連なりて闊く 江流は海に接して平らかなり
門前谿に向うの路 今夜月に分明なり

春 晴 (任 翻)

楚國春雨多 柴門晚晴を喜ぶ
幽人水に臨みて坐し 好鳥花を隔てて鳴く

山中春已晚 處處見花稀
明日來應盡 林間宿不歸 (張 籍)

山中春已に晚く、處處花を見ること稀なり。
明日來たらば心に尽くべし。林間に宿して帰らず。

明日また來らば花はもはやなからんと、
花を惜しんで林間に宿して家にも歸らな
かったのである。

花飛桃李谿 (薛道衡)

花は飛ぶ桃李の谿

春水は四澤に溢れる。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

一聲啼鳥破春寂。數點落花生暮寒。(翁朗詩)

ただ一声鳴いた鳥は春の寂しさを破り、二三点散りそめて
落花は端なくも夕暮の寒さを起こした。

一聲啼鳥破春寂
數點落花生暮寒

菅井松雲先生書

半紙部規定課題A

4月25日正午必着

暫 来
去 比
還

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

4月25日正午必着

行書

暫去還
來此

隸書

暫去還
來此

明石春浦先生書

草書

暫去還
來此

行草書

暫去還
來此

しづかなわびずまい、隣り合う家とてなく 草むす径は、荒れるにまかせた庭へとみちびかれる
鳥は池の中の木立にやどり 僧がひとり、月の光の下に門をたたく（ひそやかなその音）
橋を過ぎてなおも存する野のけはい 山中の雲のわく石を移し来てすえてあるのが目に入る
しばらく他処に行っていました、またここにもどって来ました 風雅のちぎり、決して言に違ふことはありません

題「李疑幽居」

賈島

閑居少鄰竝

草徑入荒園

鳥宿池中樹

僧敲月下門

過橋分野色

移石動雲根

暫去還來此

幽期不負言

李疑が幽居に題す

賈島

閑居 鄰並少に

草徑 荒園に入る

鳥は宿る 池中の樹

僧は敲く 月下の門

橋を過ぎて 野色を分ち

石を移して 雲根を動かす

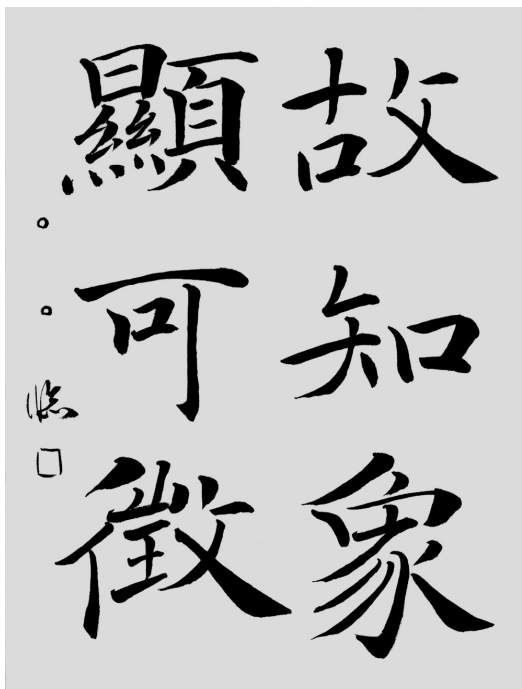
暫らく去りて 還た此に来る

幽期 言に負かず

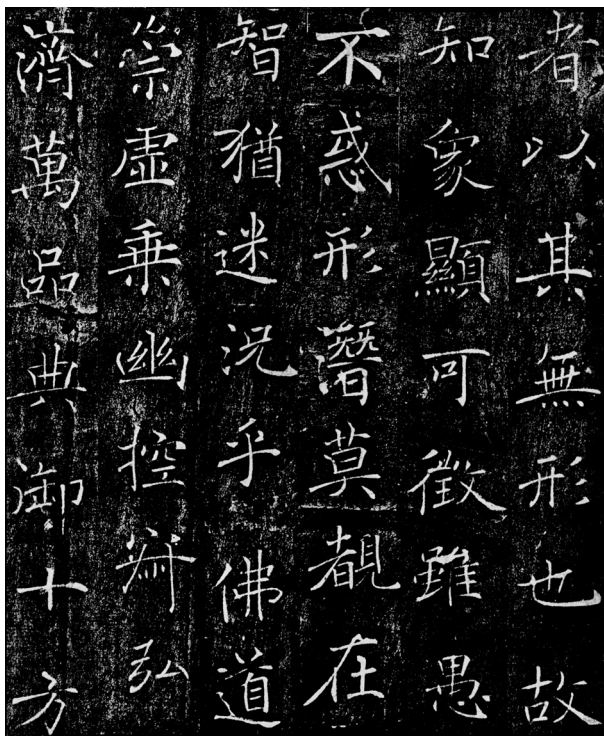
（出典）

朝日新聞社刊
「三体詩」下より

故に知る。象の顯れて徴す可ければ、



西 墨濤先生臨書



者以其無形也、故知象顯可徴、雖愚不惑、形潛莫覩、在智猶迷、況乎仏道崇虚、乘幽控寂、弘濟万品、典御十万、
 (…窮め難き) 者は、其の形無きを以て也。故に知る。象の顯れて徴す可ければ、愚と雖も惑わず、形は潜みて睹る莫ければ、智に在りても猶お迷うを。況んや仏道は虚を崇び、幽に乘じ、寂を控き、弘く万品を濟い、十万を典御するにおいておや。

唐 褚遂良・雁塔聖教序

浙江省の出身で、河南公に封ぜられたことから、褚河南の称もある。欧陽詢・虞世南と合わせて「初唐の三大家」といわれるが、彼らより四十年程、後輩となる。彼は若い時から書家として、また鑑識家として優秀だったので、重臣の魏徴の推薦により四十一歳の時から太宗に仕えた。

彼は書家として優れていたばかりでなく、人格が非常に高潔・硬骨の人であった。太宗の死後、高宗に仕えたが、則天武后が皇后になろうとするのを反対した為に左遷され、晩年は不遇の中、愛州(今のベトナム)で死んだ。

彼の書は、遠く王羲之を範とし、虞世南・欧陽詢を師としたが、のちに一派を成した。結体は閑雅悠遠、用筆は清勁で変化の妙を極め、韻致に富んでいる。

この雁塔聖教序は、五十八歳の書で、彼の代表的傑作である。玄奘法師の功績に対して太宗・高宗がそれぞれ序文と序記を作ったものである。石質が良く現在もほぼ完全な状態で残っている。結体は彼独得の豊かな抱擁力と広がりを持ち、用筆は弾力性に富み、変化の妙を極めている。

(春廣)

以其無形也故知象顯可徵雖愚
不惑形潛莫覩在智猶迷況乎佛
道崇虛乘幽控疴弘濟萬。 悃口

其の形無きを以て也。故に知る。象の顯れて微す可ければ、愚と雖も惑わず、形は潜みて賭る莫ければ、智に在りても猶お迷うを。況んや
仏道は虚を崇び、幽に乘じ、寂を控き、弘く万（品を）濟い、

《倣書参考》

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

芳樹無人花自落春
山一路鳥空啼。 書口

芳樹無人花自落 春山一路鳥空啼 （李華）

人のおとずれもない山間の芳樹は花が自ら散り、
春山のこみちを行けば鳥が静かに啼いている。

4月25日正午必着

教育部毛筆

稚魚

ち
稚

ぎょ
魚

中学一年

雨宮春聲先生書

遠征

えん
遠

せい
征

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

はな
花

ばたけ
畑

小学五年



藤井良泰先生書

さん
賛

せい
成

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

土手

ど

て

小学三年

藤田幸春先生書

男女

だん

じょ

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

み つ 小学一年・幼年



森戸春濤書

まる 円 い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

4月25日正午必着

教育部硬筆

ペン字部

生き物たちは春に
めざめて動き出す

小学五年

健康にとってすいみ
んは大切な要素だ

小学六年

災害を未然にふせ
ぐ方法を考えよう

中学

夜桜の美しさに感動
かかり火に照らされた

一般(級位)

初蛙^{はつかわず}そこの思^{おも}い聲^{こゑ}ありて
しづけ^{しづか}かもよ妻^{つま}の光^{ひかり}は

初蛙^{はつかわず}そこかと思^{おも}ふ聲^{こゑ}ありてしづけかもよ春の光^{はるのひかり}は(吉植庄亮)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。

また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

し	そ
ろ	ら
い	に
く	
も	う
	か
	ぶ

幼 年

は	ね
と	こ
が	が
ニ	一
わ	ぴ
	き

小学一年

目	ま
に	え
す	か
わ	ら
っ	ハ
た	ば
	ん

小学二年

た	川
く	ぎ
さ	し
ん	に
の	さ
草	い
花	た

小学三年

草	牛
を	が
食	の
べ	ん
て	び
い	り
る	と
	牧

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

桜さくらさくらちるさくら
しるし
しるし
しるし



桜さくらさくらちるさくら
佐 羅千流
(種田山頭火)

岩本景楓先生書